

「てくる」「ていく」「ている」に前接する動詞の種類 ——移動・状態のアスペクトの性質について——

Types of Verbs that Precede “tekuru”, “teiku”, and “teiru”:
With Special Reference to the Nature of the Aspect of Movement/State

拜尔娜 塔依尔
Baierna TAYIER

1 研究目的

日本語のアスペクト研究の中では、従来、状態性や継続性を表す「ている」についての研究が中心的行われてきた。しかし、拜尔娜（2022）で述べたように、「ている」と「ていく」「てくる」は一つのセットをなしており、「ている」だけをとりだして研究することには問題がある。

例えば、金水（2000）では、近藤（1986）をとりあげ「「いらっしゃる」「おいでになる」などの敬語の存在動詞が「いる」及び「行く」「来る」等の移動動詞の意味を表し、しかも「行く」と「来る」との区別をも失うことは、直感的・記述的にはよく知られていることではあるが、この問題の本質を、はじめて原理的な観点から明らかにした」と位置づけている。これはひとつの例であるが、このように「てくる・ていく・ている」が尊敬語になれば「ていらっしゃる」という同一の語形で示すことができることには、単なる表面上の一致以上のものがあると考えられているのであり、これらをセットとして研究する意義はある。

以上の理由により、本研究では、その三つを総合的に研究することにした。資料としては、現代日本語の資料として現在もっともよく用いられているコーパスである『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）を利用し、「てくる・ていく・ている」に前接する動詞の種類が、どのような規則によって分布しているかについて、その比率を調べることにした。そして、その前置する動詞の種類から、「てくる・ていく・ている」について、どのような種類の動詞と結びつきやすいかを調べ、また、それぞれの場合の動詞の性質や、結びつきの理由について研究を行う。

2 先行研究の概観

本稿の研究の一つの前提となった先行研究は、「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用いた「～ていく」「～てくる」構文の意味分析」と題された加藤・藤井（2016）の研究である。

加藤・藤井（2016）では、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』で「～ていく」と「～てくる」の構文の意味分析を行なっている。「～ていく」「～てくる」の文型にはアスペクト的意味を含む比喩的用法もあるが、加藤・藤井は特に、物理的移動の用法の分析を中心に報告している。また、その分析の土台として、森田（1989）で述べられた予測について述べている。その予測は次のようである。森田によれば「V1 + てくる・ていく」について、その性質を次のように分類する。

- 1 順次 「V1 の完了した後に移動が起こる」
- 2 並行 「V1 の動作と移動が同時に起こる」
- 3 状態 「V1 の行為が、移動中の移動主体の状態を表す」
- 4 一体 「V1 の動作自体が、移動を含意し、全体としての動作・行為・作用を表す」

そして、この特徴を用いて、V1 の動詞自体の性質を四つに分けて、以下のように、その動詞のアスペクト的性格によって、上の1から4の性質の分類を予測できることを述べている。

- A「他動性あり・意志性あり・アスペクト瞬間」→〈順次〉
B「他動性あり・意志性あり・アスペクト継続」→〈並行〉
C「他動性なし・方向性なし・アスペクト継続」→〈状態〉
D「他動性なし・方向性あり・移動性あり」→〈一体〉

加藤・藤井の研究では、ほぼこの森田の予測が当たっていることを示し、但し、「並行」と似たものとして「反復」（並行して、瞬間動作を行う）と「手段」（一体と似るが、特にV1の動作が移動の手段となるもの）の二つを追加する必要があることを述べている。

本研究では「～ていく」、「～てくる」以外に、「～ている」も合わせ、前接する動詞の種類をコーパスで考察し、新たに分析を行なった。ここで「～ている」も組み合わせた理由は、冒頭で述べたとおり、この三者が関連しているという予測による。

また、本研究では、これらが接続した全体としての意味だけでなく、それらが接続する動詞自体について、アスペクトに関わる傾向や制約があるのではないかと仮説を置いた。先の、森田や加藤・藤井の論を発展させたものである。以下、それについて、実証していきたい。

3 分析の具体的な方法

最初に述べたように、本研究では、国立国語研究所の中納言システムで検索できる『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)を用いて検索を行った。検索には、「短単位検索」で「語彙素検索」を使った。検索後の言語処理には、Python 言語を用いた。また Python でのプログラミング環境としては、Google の Colaboratory 環境で処理を行った。

処理の具体的な手順の概要としては次のようである。

1 「てくる」「ていく」「ている」それぞれに前置する動詞の用例を文脈つきで抜き出し、それぞれの合計数を求めた。

2 次に、「てくる」「ていく」「ている」のそれぞれに前置する動詞について、BCCWJ 全体での各動詞の出現数で割ることによって、個々の動詞の出現割合に関わらない、純粋な「てくる」「ていく」「ている」における割合を求める（なお、小数点の丸めの関係で、パーセントの合計が、100%ちょうどになっていないものもあるが、ここでの議論には直接影響しないので、そのままの値で表記している。）

以下にさらに具体的な方法について述べる。

3.1 「てくる」「ていく」「ている」の分析

まず、最初に述べた拜尔娜の別稿でも示したように、「てくる」「ていく」「ている」を『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)で動詞について語彙素検索した結果、合計件数の多い順に並び替えたものを表 3-1 として示す。なお、件数が多いため、合計件数のランキング上位 10 位までを載せた。

表 3-1 「てくる」「ていく」「ている」の合計件数：

	てくる前の語彙素	件数	ていく前の語彙素	件数	ている前の語彙素	件数
1	為る	20104	為る	21191	為る	231647
2	出る	18860	成る	3984	成る	62069
3	成る	10778	持つ	3923	思う	24627
4	遣る	9586	出る	3550	持つ	19900
5	返る	7143	連れる	325	考える	16083
6	入る	4915	生きる	2052	来る	13438
7	戻る	4378	入る	1904	言う	12894
8	持つ	4177	遣る	1824	見る	12735
9	行く	2711	歩く	1432	知る	11444
10	見える	2135	進める	1350	入る	8731

表 3-1 では BCCWJ コーパスでもっとも頻繁に使われる「動詞+てくる・ていく・ている」の前接動詞を単純な合計の値で把握できる。しかしながら、先に述べたように、個々の動詞の本来の出現率に影響されているので、国立国語研究所学術情報リポジトリのホームページの『現代日本語書き言葉均衡コーパス』短単位語彙表 (Version1.1) からコーパス全体の動詞出現件数を調査し、そして、その値で、上記 3-1 の『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ) で検索した動詞結果の合計件数を割って、補正することで、出現率に影響されない順位を計算した。ここでの補正数値では「コーパス全体の動詞出現件数」には、V、V テクル、V テイク、V テイル、が全て含まれている。

3.2 短単位語彙表による補正の方法

はじめに、国立国語研究所学術情報リポジトリのホームページから『現代日本語書き言葉均衡コーパス』短単位語彙表 (Version1.1) をダウンロードし、全体の語彙表から「動詞」のみの内容を抽出した。「動詞」のみの語彙表は 9541 件あり、中では重複する動詞もあるため、最初に重複する動詞を合併しなくてはならない。そのため、初めの作業として 9541 件の動詞の並べ替えをし、中で重複する動詞を見つけ、合併する作業を行なった。

その後、表 3-1 の「てくる・ていく・ている」の語彙素を「てくる」、「ていく」、「ている」の三つに分類し、それぞれの内容を csv 形式 (コンマで、語形と数値のフィールドが区切られた一般的な表形式のデータ) に変更した。次に、短単位語彙表の「動詞」のみの内容も csv 形式に変更した。

データを csv 形式に変更した後、Google Colaboratory 環境で Python を使用し、「てくる」、「ていく」、「ている」の数値を短単位語彙表の「動詞」で割る計算を行なった。

3.3 語彙表による「てくる」「ていく」「ている」の数値

「てくる」「ていく」「ている」を語彙表で割り、使用率が多い順に並び替えたところ、表 3-2 のようになる。ここでも同様に件数が多いため、合計件数のランキング上位 10 位までを載せた。

表 3-2 「てくる」「ていく」「ている」に前接¹する動詞の最終数値

	てくる語彙素	割り算結果	ていく語彙素	割り算結果	ている語彙素	割り算結果
1	込み上げる	0.7068146	連れる	0.3041067	待ち構える	0.7681499
2	湧き上がる	0.3859649	遠ざかる	0.236478	持ち合わせる	0.7335984
3	押し寄せる	0.3535076	のめり込む	0.2255892	備わる	0.6469595
4	跳ね返る	0.3347639	駆ける	0.2235294	待ち受ける	0.6055046
5	飛び込む	0.3099357	走り去る	0.2147651	物語る	0.5612145
6	返る	0.296218	通り過ぎる	0.2127139	潜む	0.5564516
7	沸く	0.2952804	遠退く	0.20059	ぶら下がる	0.4745098
8	浮かび上がる	0.280654	突き詰める	0.1991342	満ち溢れる	0.472
9	押し掛ける	0.2727273	薄れる	0.1799163	心得る	0.4456654
10	伝わる	0.2718129	吹き抜ける	0.1699029	思い込む	0.4444444

表 3-2 から「てくる」が使われる場合、前置²する動詞は「込み上げる」、「湧き上がる」、「押し寄せる」などの比率が高い事が明らかになる。「ていく」の場合、前置する動詞は「連れる」、「遠ざかる」、「のめり込む」などの比率が高い。「ている」の場合、前置する動詞は「待ち構える」、「待ち合わせる」、「備わる」などの比率が高い事がわかる。

3.4 「てくる」前接語の分析

次に「てくる」単独での前接語分析を行う。上記のように補正した数値を用いて、表 3-3 を作成した。ここで示している数値とは、先に示したように『現代日本語書き言葉均衡コーパス』短単位語彙表を対象とし、「てくる」「ていく」「ている」それぞれと割り算を行なって補正したものである。

「てくる」以下の数値は補正した出現数、「比率」の部分は、3 者の単純な出現数が全体の中でどれだけ占めるかを表示したものである。

¹ 前接語：接語とは、統語論上は独立の語だが、音韻論上は他の語に依存している拘束形態素（束縛形態素）である。前の語と結びつく接語を **enclitic**。『言語学大辞典』では **enclitic** を前接語と訳している。Wikipedia：<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%8E%A5%E8%AA%9E>

² 前置詞：名詞句の前に置く接置詞を前置詞と称ぶ。前置詞は、SVO 型言語や VSO 型言語など、動詞が目的語に先行する言語にしばしば見られる。

Wikipedia：<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%8E%A5%E7%BD%AE%E8%A9%9E>

表 3-3 「てくる」の比率が多い順

	語彙素	てくる	ていく	ている	てくる比率	ていく比率	ている比率
1	込み上げる	0.7068146	0	0.0031696	99.55%	0.00%	0.45%
2	湧き上がる	0.3859649	0	0.045614	89.43%	0.00%	10.56%
3	押し寄せる	0.3535076	0.005501	0.0687758	82.64%	1.29%	16.08%
4	飛び込む	0.3099357	0.056352	0.0148295	81.32%	14.79%	3.89%
5	返る	0.2962188	0.0300655	0.0111139	87.79%	8.91%	3.29%
6	沸く	0.2952804	0	0.0367084	88.94%	0.00%	11.06%
7	浮かび上がる	0.280654	0.0018165	0.0808356	77.25%	0.50%	22.25%
8	押し掛ける	0.2727273	0.0334928	0.0263158	82.01%	10.07%	7.91%
9	伝わる	0.2718129	0.0161404	0.0809357	73.68%	4.38%	21.94%
10	押し掛かる	0.2633333	0.02	0.18	56.83%	4.32%	38.85%

表 3-3 では、「込み上げる」、「湧き上がる」、「押し寄せる」の様な動詞が「てくる」を使用する場合、「ていく」と「ている」の場合に比べ、多く使われる事がわかった。また、それらは、「込み上げる」や「湧き上がる」、「押し寄せる」のように物事が対象に対して近づく行動を表す動詞が多数であった。BCCWJで検索した場合、「込み上げる」や「湧き上がる」、「押し寄せる」では以下の通りの例文が挙げられている。

「込み上げる」の場合、

・「胸がムカムカする。胃から酸っぱい液がこみ上げてくる。これ以上は我慢できない。一気にロープを引く。」

・「おばさんは、胸の奥底からこみあげてくる興奮の波に全身をわしづかみにされていた。」このように「込み上げる」+「てくる」構文例文は多数使用され、「てくる」と合わさった意味を表す。

次に、「込み上げる」の後接語に「てくる」がない場合の解釈について具体例を挙げ、「込み上げる」という動詞の単独の意味について見ていきたい。

1. 聖ミカエルの塔には何の動きも見えない。微かな不安が込み上げる。フォルステルとブランデスは、本当にあの中にいるのだろうか。

(『サザンクロス流れて』中島渉著・中央公論社・1987)

例文 1 では主人公が誰かを探している行動をしている。そこで、「不安」な気持ちを対象とし、この例文での「込み上げる」は対象の気持ちが増加する、即ち、対象の持つ何かの目的点に近づく意味を表している。

次に「湧き上がる」に関して見ていく。「湧き上がる」も

・「魂の意識下から湧き上がってくる衝動が芸術的創造行為に必要なだと考えながらも、明瞭な意識に現れる…」

・「わたしは、胸のなかに、残酷なまでのなつかしさが湧き上がってくるのをおぼえた。」
のように「湧き上がる」+「てくる」構文が多く、「てくる」に偏りを持つのだが、「湧き上がる」の後接語に「てくる」が来ない例文では、次のようになる。

2. 晁の何を見てきたんだろう…！翠の胸に後悔が湧きあがる。あんなに長い時間を晁といっしょに過ごしてきたのに。

(『天使なんかじゃない』矢沢あい原作；下川香苗著・集英社・1995)

「湧き上がる」に関する例文2では、「胸に後悔が湧きあがる」という使い方をしているのだが、ここでは「後悔の気持ちが現れ、だんだんその気持ちが増加している」という解釈ではないかと思われる。ある目的点に対する増加という点では「込み上げる」と共通している。

次に「押し寄せる」に関して見ていく。「押し寄せる」も

・「青味がかかった朝の濃密な気配が部屋に押し寄せてくる。」
・「マクベスと彼に向かってじわじわと押し寄せてくる、物言わぬ動く森のようなものだからである。」

のように「押し寄せる」+「てくる」構文が多い。

ここでも「湧き上がる」の後接語に「てくる」がない例文で分析を行う。

3. もっとも目には見えなくとも間断なく時代の変化の波が押しよせるなかで、いつのまにかバイエル先生がご先祖さまに祭り上げられる日がくる。

(『ショパンが弾けた！？』伊能美智子著・春秋社・1986)

3の例文では、「時代の変化の波が押しよせる」となっている。時代は時間に流れ、変化しつつあるものであり、例文の「波が押しよせる」とは時代の変化が目的点に近づくと思える。

以上の例文を分析した結果、「込み上げる」、「湧き上がる」、「押し寄せる」などは明らかに「くる」に似た、ある目的地に《近づく》意味が、動詞自体に内包されていることがわかった。このような対象に近づく概念は「出直す」なども同様である。「出直す」とは「一度出て、いっぺん戻って、また出る。」と解釈でき、結局、どこから離れてまた近づくことを示している。

他にも例が比較的多い、「食い下がる」などに関しては、『物理的には』どこにも近づかな

い、ということになるが、実際の意味としては、相手の論に対して反論を諦めずどこまでも論を進めていく、という意味であり、その《どこまでも相手の論から離れず続ける》という抽象的な概念が、物理的に相手に近づく、接近する、という概念と類似しているという解釈ができる。

3.5 「ていく」前接語の分析

次に3-3と同じように、「ていく」の比率の方が多い順になるよう、表3-4を作成した。

表3-4 「ていく」の比率が多い順

	語彙素	ていく	ている	てくる	ていく比率	ている比率	てくる比率
1	裏返す	0.0069444	0	0	100%	0.00%	0.00%
2	混ぜ合わせる	0.0025873	0	0	100%	0.00%	0.00%
3	際する	0.0004177	0	0	100%	0.00%	0.00%
4	目掛ける	0.00369	0	0	100%	0.00%	0.00%
5	走り去る	0.2147651	0.0033557	0	98.46%	1.54%	0.00%
6	通り過ぎる	0.2127139	0.0130399	0.00489	92.23%	5.65%	2.12%
7	去る	0.1632966	0.0168928	0.0010238	90.11%	9.32%	0.56%
8	走り抜ける	0.1434599	0.021097	0.0042194	85.00%	12.50%	2.50%
9	擦り抜ける	0.1462585	0.0170068	0.0102041	84.31%	9.80%	5.88%
10	駆け抜ける	0.01173	0.16422	0.02053	5.97014	83.5821	10.4478

表3-4では「ていく」の前の動詞の使用率に関して結果を表している。ここで、「裏返す」、「混ぜ合わせる」、「際する」などの動詞が、「ている」「てくる」がないため、使用する比率は100%となっている。「裏返す」はBCCWJで288件の例文が挙げられるが、「ていく」は2例のみ、「混ぜ合わせる」も「ていく」が後接するのは2件、同様に「際する」も「ていく」が後接している例文は1件のみである。以上の四つは用例数が少ないため除外し、ここでは、用例数の絶対値が大きいランキング5位の「走り去る」から分析することにした。

初めに「走り去る」では

- ・「ちょうどその後ろ側の顔に付いた目を光らせて、走り去っていくところだった。」
- ・「よい夜を、奥さん、お嬢さん」ボルボが走り去っていくと、ハンソンは、男がパトカーの後輪の陰に投げ込んだマリファナ入りのポリ袋を…」

のように使われる事が多い。次に、「ていく」が後接しない場合の例文を見ていく。

4. 坂井はまたおどけた顔をして、ボロ自転車で走りさった。あそこ電話のある家は百軒

に一軒ぐらいいったから。

(『死んでたまるか!』佐藤州男作;高橋透絵・ポプラ社・1987)

初めに、4の例文では坂井が「自転車」に乗って「走り去った」との意味を表している。この例文での「走り去った」とは坂井が当時居る場所から離れるという意味を表している。次に、「通り過ぎる」を見ていく。「通り過ぎる」は

・「時折、ミンスク行きの列車が、もの悲しい警笛を鳴らしながら通り過ぎて行く。キノコを見つけると、根元をナイフで切って、ビニール袋に入れる。」

・「終バスがやって来たのだった。牧子は、バスが通り過ぎて行くのを、一応見届けようとした。」

のように「通り過ぎていく」の使い方が多いが、ここでも「ていく」が後接していない例文を見ていく。

5. 充分意識しつつ、悪びれる様子もなく堂々と歩いて来る。我々の前を通り過ぎた時だった。

(『ヒゲのオタマジャクシ世界を泳ぐ』岡村喬生著・新潮社・1986)

5の例文では「通り過ぎる」は「我々の前を通り過ぎた時だった」と使われている。ここでは対象者が我々の目の前に現れたが、我々から「離れる」動作を描写していると考えられる。

最後に「去る」を見ていきたい。「去る」の場合は

・「時がきてはまた去って行くうちに、男の子たちが若者になりました。たくましい、丈夫ね。」

・「ザニーは茂みの中に隠れたまま、マーフィーが去っていくのをじっと見ていた。」

のように「去っていく」の使い方が多く見られるが、以下では「ていく」が後接していない例文を挙げた。

6. 家族は、いちもにもなく喜んで参加されるという。もうすぐリヤドを去る人と、リヤドに来たばかりの人が不思議と集まる。

(『住んでみたサウジアラビア』樋口健夫, 樋口容視子著・サイマル出版会・1986)

「去る」も本来「離れる」という意味を持ち、6では「リヤド」という地名を対象とし、リヤドから離れる動作を示している。

以上の例文を分析した結果、「走り去る」、「通り過ぎる」、「去る」などは明らかに「いく」と同じ意味の主体から《離れる》ニュアンスを持つ事がわかった。例文に使われている動

詞以外に、走り抜ける、擦り抜ける、駆け抜けるなども「くる」「いる」よりも、「いく」のニュアンスを持っている動詞である。

3.6 「ている」前接語の分析

最後に、「ている」の方の比率が多い順になるようにして、表 3-5 を作成した。

表 3-5 「ている」の比率が多い順

	語彙素	ている	ていく	てくる	ている比率	ていく比率	てくる比率
1	待ち構える	0.7681499	0	0	100%	0.00%	0.00%
2	待ち受ける	0.6055046	0	0	100%	0.00%	0.00%
3	横たわる	0.4171171	0	0	100%	0.00%	0.00%
4	佇む	0.3872054	0	0	100%	0.00%	0.00%
5	目論む	0.3709677	0	0	100%	0.00%	0.00%
6	適する	0.3351322	0	0	100%	0.00%	0.00%
7	聳える	0.3287356	0	0	100%	0.00%	0.00%
8	寝そべる	0.3247232	0	0	100%	0.00%	0.00%
9	見惚れる	0.3220339	0	0	100%	0.00%	0.00%
10	弁える	0.2994186	0	0	100%	0.00%	0.00%

表 3-5 でわかるように、「てくる」と「ていく」と比較した際、「ている」に前接する動詞は、非常に偏りがあり、1 位から 162 位までがすべて 100% だった。そこで、この 162 個の動詞について、出現数（全体の使用数で補正した数値）の大きい順に並び替えて表 3-5 には示してある。例えば、「待ち構える」の場合、「待ち構える」での出現数が 427 件であるが、「待ち構えている」は 328 件であり、除算した 0.76 が「ている」が付きやすいものであることを意味する数値となっている。

「待ち構える」の場合、

・「「有名病」の患者が期待するものとはまさに正反対の明日が待ちかまえていることを覚悟の上の同居である。」

・「また同時に、同義反復的な主張におちいるという罨も、そこに待ちかまえている。」
のように「待ち構える」+「ている」の例文が多く見られる。以下では、ここまでと同じように「ている」が後接しない例文を挙げた。

7. 以来、数分後に襲ってくる本番の前にすべての始末を終え、待ち構える余裕さえ身に付けたのである。

（『サハラ縦走』野町和嘉著・岩波書店・1993）

7では主人公が本番に対して期待しながら待つ事を描写している。「待ち構える」は本来ある事に対して静止して待機する状態を表している。

次に、「待ち受ける」に関して見ていく。「待ち受ける」は、

・「戦場には先に到着せよ〈先に戦場へ到着して敵を待ちうけているほうはゆとりがあり、後から戦場にかけてつけたほうは苦しい…〉」

・「以上、彼女たちはなにがしかの買物のためにスーパー・マーケットが開かれるのを待ちうけているのであろう。」

のように、「待ち受ける」+「ている」の構文を用いた例文がある。以下、では「ている」が後接しない例文を挙げた。

8. 私は、私たちがめがけて殺到するであろう面罵のことばの数々を、じっと待ち受ける気持ちになった。そのときに、私は、セチェン王に会うであろう。

(『契丹伝奇集』中野美代子著・日本文芸社・1989)

8ではこれから迎える「面罵のことば」に対して予期して待つ事を表している。「じっと待ち受ける気持ちになった」の描写している内容でも「気持ち」があり、ここでは「てくる」や「ていく」の前接動詞に見られたような動きのある動作を表しているのではなく、やはり静止した動作を表している。続いて、「横たわる」+「ている」の例文を見ていく。

・「千五百～二千五百メートル級の山々が南北を分断し、四百キロにわたって横たわっている。」

・「歴史を感じないわけにはいかない。歴史がかなりまとまって、そこに横たわっているかんじなのだ。」

のような文が見られる。「ている」が後接しない例文に関して見ていく。

9. 何を、いかに教えるかとなると、対立はまだ深い。性教育は根底に横たわる価値観の問題を避けては通れないからだ。

(『女たちが変えるアメリカ』ホーン川嶋瑶子著・岩波書店・1988)

9では、性教育に対する価値観の問題を描写している。例文での「横たわる」は横になるという動きのある動作ではなく、静止した状態の動作を表している。以上のように、「待ち構える」、「待ち受ける」、「横たわる」に関する例文の分析を行った。

「てくる」及び「ていく」との比較ができなかったため、先の表3-5のデータの中から、念のため、「ている」以外に、「てくる」「ていく」でも使われる動詞を対象とし、「ている」の比率が多い順のランキング163位以降の動詞ランキング(表3-6)を作成した。

表 3-6 に関しては「てくる」「ていく」と比較した状態で、「ている」を使用する場合、どの動詞を頻繁に使っているのかを示した。ここで頻度を見ていくと「ている」の場合、最も多く使用されたのは「潜む」、「困る」、「待ち合わせる」などの静止している状態、様子を表すものである。「ている」の前の動詞に関しては、その動詞は移動の動作を表しているものではない事がわかる。

表 3-6 「ている」の方が多い順 (分析可能)

	語彙素	ている	ていく	てくる	ている比率	ていく比率	てくる比率
163	潜む	0.5564516	0.0008961	0	99.84%	0.165%	0.00%
164	困る	0.1916008	0	0.0003206	99.83%	0.00%	0.17%
165	待ち合わせる	0.7335984	0.0019881	0	99.73%	0.27%	0.00%
166	優れる	0.2353298	0	0.0008094	99.66%	0.00%	0.34%
167	物語る	0.5612145	0.0009794	0.0009794	99.65%	0.17%	0.17%
168	知る	0.1774181	0.0004961	0.000124	99.65%	0.28%	0.07%
169	恐れる	0.1490751	0	0.0005441	99.64%	0.00%	0.36%
170	住む	0.4012294	0.0004154	0.0010799	99.63%	0.10%	0.27%
171	願う	0.0394123	4.91E-05	9.83E-05	99.63%	0.12%	0.25%
172	来る	0.0564349	0.0001512	6.72E-05	99.61%	0.27%	0.12%

ここでは「ている」で圧倒的に多かった動詞の例文を具体的に、見ていきたい。初めに「潜む」は一般的に

- ・「解決を与えるわけにはゆかないという理由が、そこには同時に潜んでいるのである。」
- ・「このケースの裏には、とんでもない事柄が潜んでいる」などのように「潜む」+「ている」

の形式で使われる。ここでは「ている」が後接しない例文を見ていく。

10. 梅田は相変らず、角材を立てめぐらした隠れ場所に潜んだままで得意そうに笑った。

(『坂本竜馬』山岡荘八著・講談社・1986)

10では「梅田」という人物を対象としてとある場所に隠れるという行為を描写している。ここでの「潜む」は、動作であるが、「留まっている」という静的なものと解釈した方がより適切だと思われる。

- 次に「困る」に関して見てみたい。「困る」は「ている」と組み合わせ、
- ・「日本製のイヤホン型ステレオを離さず、オペラ好きのチャールズ皇太子が困っているという話。」

・「もっともっとみんな立ち上がらなければならないということ。そして、困っている近所や友人宅へ駆けつけて、してあげるんじゃない…」

のように使われる。ここでも以下に「ている」が後接しない例をあげた。

11. 質問に対し松本さんがかえした答えが忘れられない。「訳すのに、一番困るのは『インタレスト』です。

(『昭和史への一証言』松本重治著・毎日新聞社・1986)

11では何らかの内容に対して訳す場合の心境を述べている。この「困る」も動作ではなく、内心の一種の状態を表しているのである。

最後に「待ち合わせる」に関して見てみたい。「待ち合わせる」は

・「オックスフォードに着いたとき予定から一時間も遅れていた。バス停で待ち合わせているはずの伝記作者ホッジス氏の姿はなかった。」

・「由美子とは、午後六時に高田馬場駅の喫茶店で待ち合わせていた。」

のような例文が挙げられたが、「ている」が後接しない例文では次のようなものが代表的である。

12. 渋谷のハチ公の銅像前で木山と待ち合わせたことがあったのを、ちらっと思い出しながら受話器を置いた。

(『消されたスクープ』三浦浩著・集英社・1990)

12の例文では「どこで誰と待ち合わせる」との構文が示されている。例文の「待ち合わせる」も動作と解釈できるかもしれないが、例文では「待ち合わせ」をする静的な事態を表しているのではないと思われる。

3.7 その他の例外的事象

以上、「てくる」「ていく」「ている」が接続した動詞の単独で使われているものも、それぞれ「くる(近づく)・いく(離れる)・いる(状態)」の持っているアスペクトに近い動詞の性質を持つものが多い事が分かった。

ここで、ひとつ例外的な、ランキングの172番の「来る」に関して考える。まず、「来る」+「ている」の例文を見てみたい。

13. マグライト忘れて困ってる夢を見ましたよ。まあそんなこんなで近づいて来ていることもあり、久しぶりにおっさん君からメールが。

14. 機械の作動音を感じ取った。「…あった。近づいて来ている。ゼリアサッカーじゃない。四足動物？」

(『ルーン・ブレイダー!』神野 淳一(著)メディアワークス;角川書店・2005)

例文 13 では「近づいて来ている」とあるが、この場合「来ている」は進行中の意味ではなく、むしろ、「近づいて来た」という結果の存続を表している。例文 14 もそういう動作であることの報告である。これらの「ている」は、「走っている」のような進行継続のAspectではなく、「落ちている」のような結果の存続のAspectとみることができる。「台風がそこまで来ている」と「財布がそこに落ちている」とを比較してみると、その類似性を知ることができる。このように「来る」という動詞は、単独に使われると、動作でありながら、むしろ瞬間動詞のようなニュアンスを持つ特殊なものであることがわかる。このランキングには出てこないが「行っている」も「来ている」と同様に、継続進行を示すものではなく、「行った」という状態の存続を示していることは明らかである。「彼は今アメリカに行っている」というのは飛行機の中での移動中のことではないのである。このように、「来る」の特殊性は「行く」にも同様に存在することがわかる。

4 総合的に得られた知見

近藤(2000)、金水(2004)の知見を踏まえ、拜尔娜(2022)では、「ていらっしゃる」と共起する副詞のタイプに着目し、それぞれの副詞のタイプに応じて、「ていらっしゃる」が「てくる」「ていく」「ている」のうち、どの意味に解釈されるかについて考察を行った(副詞のタイプとして、「様態副詞」、「程度副詞」、「量的副詞」、「テンス・Aspectの副詞」、「陳述の副詞」、及び「その他」を立てた)。結果は表 4-1 の通りである。

表 4-1. 副詞と「ていらっしゃる」の関係性

副詞分類	具体例	「ていらっしゃる」との関係性
様態副詞	また、せっかく、既に	「ていく」「てくる」の意味
程度副詞	たくさん、結構、良く、もう	「ている」の意味
量的副詞	いっぱい、多々、いっぺんに	「ている」「てくる」の意味
テンスAspectの副詞	まだ、まもなく、もう、やがて	「ていく」「てくる」の意味
陳述の副詞	わざわざ、きっと、恐らく	「ていく」「てくる」「ている」の意味

このように、「ていっちゃう」は、様態副詞やテンス・アスペクトの副詞と共起している場合は「くる、いく」の意味、程度副詞と共起している場合には「ている」の意味、量的副詞と共起している場合には「ている」「てくる」の意味、陳述副詞と共起している場合には、「てくる、ていく、ている」の意味と解釈されることになる。「てくる・ていく・ている」が尊敬語になれば「ていっちゃう」という同一の語形で示すことができることには、単なる表面上の一致以上のものがあると考えられているのであり、これらをセットとして研究する意義はある。

本論文では「てくる」「ていく」「ている」の意味分析をする際、「てくる」「ていく」「ている」が後接している動詞自体を分析し、その動詞単独で、どのような意味になっているかを中心に検証した。そして、例文から分析した結果、「てくる」が特に後接しやすい「込み上げる」、「湧き上がる」、「押し寄せる」などは、対象に《近づく》解釈ができることを示した。

また、「ていく」が特に偏って後接する「走り去る」、「通り過ぎる」、「去る」などは対象から《離れる》意味を持つ。「ている」が後接しやすい「待ち構える」、「待ち受ける」、「横たわる」などは、《状態》あるいは《静止》を表す。このように、例文の分析結果から、動詞に「てくる」「ていく」「ている」が後接しない場合でも、対象動詞が本来持っている「てくる・ていく・ている」と類似する意味素性《移動と状態（静止）》があり、それに近いものが後接する傾向が強いという知見が得られた。

従来、動詞の接続に関しての代表的研究である、金田一（1950）では「継続動詞の場合だと、テイル形は《進行》と《完了》の両方を表せる」と述べた。つまり、どの場合、進行の意味を持ち、どの場合、状態の意味を持つかについては「～ている」の前に接続する動詞から解釈できるとする。例えば、「ご飯を食べている。」「道を走っている。」などは進行の意味を持ち、「財布が落ちている。」「アメリカに来ている」「アメリカに行っている」は進行してなく、《完了》の意味、すなわち、状態を表している。そのため、動詞が本来持っている性質にただ付加されているのではなく、全体として、一つのアスペクトを作っている。

ここで一度「てくる」「ていく」「ている」の関係性を表 4-2 の通りにまとめた。

表 4-2. 「てくる」「ていく」「ている」の関係性

動詞と「てくる」「ていく」「ている」の構文	進行	状態
動詞+「てくる」	○	
動詞+「ていく」	○	
動詞+「ている」	○	○

「てくる」「ていく」及び「ている」の相違点は移動する場合は「進行」であり、移動しな

い場合は「進行」と「状態」を表していることである。

敬語化した「ていらっしゃる」の場合も上記と同様に、「進行」と「状態」両方の意味を持つ。例えば、「座っていらっしゃる」の場合は静止であり、状態を表し、「走っていらっしゃる」の場合は移動の動作を行なっているため、進行の意味を持つ。「走っていらっしゃる」という敬語形は「走ってくる・走っていく・走っている」のどの場合にも当てはまるが、いずれの場合も、進行の意味となる点は同じなのである。

今回の研究では、上の体系そのものを変更するものではないが、動詞に「てくる・ていく・ている」が付いて、それぞれが独立して意味を付加するという単純なものではなく、もともとの動詞の意味素性も、「てくる・ていく・ている」形の成立に関わっていることを示したのである。

以上の考察から、次の3点を結論として指摘しておきたい。まず、「てくる」等のアスペクトを表す接辞は、動詞の意味にただ単純に付加されるのではなく、動詞の本来持っている意味を強化する作用があることである。この性質は、ヴォイスの「れる・られる」や「せる・させる」の場合とよく似ている。受動の「れる・られる」は、非対格自動詞には付きにくいというようなことが知られている（「溶けられる」などとは言いにくい。）このように、ヴォイスも動詞本来のヴォイス的性格に大きく影響される。他には、自然にそうなるという意味の「溶ける」には、同じく自発的な「られる」が付かないのである。

それに対して、過去テンスの「た」や、推量などのモダリティの助動詞はどんな動詞にも自由に接続することができる。つまり、動詞とは無関係なのである。このように「ている」等の状態・移動系のアスペクトの性質は、それが接続する動詞との関係が深いという意味において、ヴォイスと似た側面があるのである。

第2の点としては、「てくる」「ていく」は進行の意味を表すのであるが、「来ている」「行っている」のように「ている」の前の「来る」「行く」という動詞は特別であり、通常の進行の動詞（例えば「走る」「歩く」）などとは異なった様相を示す。今回はそれ以上の分析はできないが、「来る」「行く」が特別な動詞であることは理解できるだろう。

第3の点としては、「てくる・ていく・ている」が尊敬語化して「ていらっしゃる」になった時も、前接動詞の性格に応じて、進行や結果の存続の意味が分化することである。この点は、本稿の結論から導き出されることであるが、さらに今後の研究が必要である。

以上、接続のランキング上位の用法を中心に論じてきたが、「ちょっとあっちで寝てくる」のような往復運動を含む「てくる」など特殊なものもある。それらについても、今後の課題としたい。

付記

本稿は第 65 回計量国語学会における口頭発表に基づく。発表内、そしてその後私信で貴重ご意見をお寄せ下さった先生方に謝意を表したい。

参考文献

- 加藤麟太郎・藤井聖子 (2016) 「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用いた「～ていく」「～てくる」構文の意味分析」. 国立国語研究所学術情報リポジトリ (編). 『言語資源活用ワークショップ 2016 論文発表集』. pp. 273-281
- 金水敏 (2004) 「敬語動詞における視点中和の原理について」. 音声文法研究会 (編) 『文法と音声Ⅳ』. くろしお出版. pp.181-192
- 金田一春彦 (1950) 「国語動詞の一分類」. 『言語研究』 15. pp.48-63
- 近藤泰弘 (1986) 「敬語の一特質」. 築島裕博士還暦記念会 (編). 『築島裕博士還暦記念国語学論集』. 明治書院. pp. 85-104
- 拜尔娜 塔依尔 (2022) 「現代日本語の「ていらっしやる」とその非敬語形」. 青山学院大学日文学院生部会 (編) 『緑岡詞林』 46: pp. 1-17

関連 URL

Wikipedia (Python)
<https://ja.wikipedia.org/wiki/Python>

現代日本語書き言葉均衡コーパス
<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>

Colaboratory
<https://colab.research.google.com/notebooks/intro.ipynb?hl=ja>

国立国語研究所学術情報リポジトリ
『現代日本語書き言葉均衡コーパス』短単位語彙表 (Version 1.1)
https://repository.ninjal.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=3235&item_no=1&page_id=13&block_id=21

辞書

飛田良文・浅田秀子 (2019). 『現代副詞用法辞典新装版』. 東京堂出版

18 文学部附置人文科学研究所論叢第4号

小泉保、船城道雄、本田昴治 仁田義雄 塚本秀樹（編）（2014）.

『日本語基本動詞用法辞典』第7版. 大修館書店.

森田 良行（1989）. 『基礎日本語辞典』. 角川書店